

北朝鮮による拉致被害者の一人である横田めぐみさん（新潟県出身、当時 13 歳）が拉致されてから、11月15日で44年になりました。この日本人拉致問題は、日本政府がかかげる「解決すべき人権課題」の一つで、生徒の皆さんにも関心を持ってもらいたい課題です。

◎北朝鮮による日本人拉致問題とは？

1970年代から80年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で行方不明になりました。日本政府による調査や亡命した北朝鮮工作員の証言により、これらの事件の多くは北朝鮮による拉致の疑いが濃厚であると明らかになりました。

1991年以来、政府は機会あるごとに北朝鮮に対して問題提起していましたが、2002年の第1回日朝首脳会談において、北朝鮮は初めて拉致を認め、謝罪し、再発防止を約束しました。同年には、5人の拉致被害者が24年ぶりに日本に帰国しました。

しかしながら、残りの安否不明の12名について、未だに北朝鮮当局からは納得のいく説明がなされていません。残された被害者たちは、今なお自由が奪われ、長きにわたり北朝鮮にとらわれたままの状態、現在も救出を待っています。

◎私たちに何ができるの？

拉致問題は国際社会を挙げて取り組む必要がありますが、私たち国民も、この問題についての関心と認識を深めていくことが大切です。

啓発アニメ『めぐみ』（右図）は、横田めぐみさんが拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や救出活動の様相をえがいたドキュメンタリーです。政府 拉致問題対策本部ウェブサイトからダウンロードして視聴することもできます。

これを観た1年生の感想を紹介します。関心を持ち続け、周囲に伝えることが、まずできることではないでしょうか。



（画像：政府 拉致問題対策本部ウェブサイトより）

- ☞ 拉致というのは、人の自由を奪う行為だと聞き、絶対に起きてはならないことだと思いました。知らない話、人ごとだと思わず、私も何か拉致問題を無くす手伝いがしたいです。もっと拉致問題の大きさを、たくさんの人に知ってほしいです。
- ☞ 人の自由を奪ってしまう拉致問題は、起こってはいけないということを強く知ることができました。めぐみさんの両親は誰よりも強く主張し人々の心を動かしたことは事実だと思います。もっと多くの人に届いて、一人でも多く協力し、動いていかなければならないと思いました。